

曲原國周画

澤村屋版

初屋下の海
た



初編の上のまき

明良双葉艸初編

万亭應賀作





初編 上 きのまの

明良双葉艸初編

万亭應賀作



初編上册事目

- 徳川家康公明德をのりて治世長久の基礎を立ぬ事
- 二代江府君孝心厚く駿府大御所の起居と問ぬ事
- 大御所阿茶の局と密談して江府の心腹を探りぬ事
- 江府君の旅館の寝所へ美人花女秘りよ音信る事
- 江府君の律義闇夜に弥まし露れて花女進退と失ふ事

4623

48-765

明良双葉州初編叙

夫武の樞要智仁勇へ天下の達道と雖も裏に節儉を納
 ざる師將を石牛五丁の攻め其是を兼備せらるる
 治世長久の基礎を開きし徳川家康公なり厥も
 又明君の麾下に良臣賢婦の在り故みれば其明良
 の姓名と審より善行嘉言を綴りて柳史のすま
 る粗無替の偶意は文花と飾り童蒙婦女子の面
 目と悦を是とせし所謂無用を則ち有用の助成
 如くと巻中の赦罪と茲に頌首百拜して謹言

明治十六年
 六月日癸市

万亭應賀



二葉草の上

征夷大將軍 德川家康公

此君八岡崎次郎三郎廣忠公の御嫡男御母堂八水野忠政の娘天文十二年

三州岡崎城

御誕生如名竹十代

君初の御室八合川

秀吉公の妹慶長八月十二日

將軍宣下元和四月十七日御他

界御年七十五

駿州久能山

葬後野州日光山移し
東照宮に祭る維新より
神徳と官幣別格中社に崇めらる



阿茶の局

此局ハ元令川義元の臣神尾

孫兵衛の妻なり

神君今川家へ質とす

是時孫兵衛夫婦

厚く禮を盡す孫

兵衛義元と共に戦死

せし甲州の生家へ歸

りて一子伊之助とす

又武田家滅亡してよる

神君甲州へ入る時旧恩ありて母子と遠州へ連る
老女とす伊之助と二代君へ付ら二代の姫君御入内の時



御母代とあつて従一位ノ

叙せられ

慶賀を

授け

徳川二代將軍秀忠公

此君の家康公御三男御母堂の西郷
某の養女天正

七年四月七日

遠州濱松城

御誕生幼名長九君

文祿四九月十七日御婚禮御臺

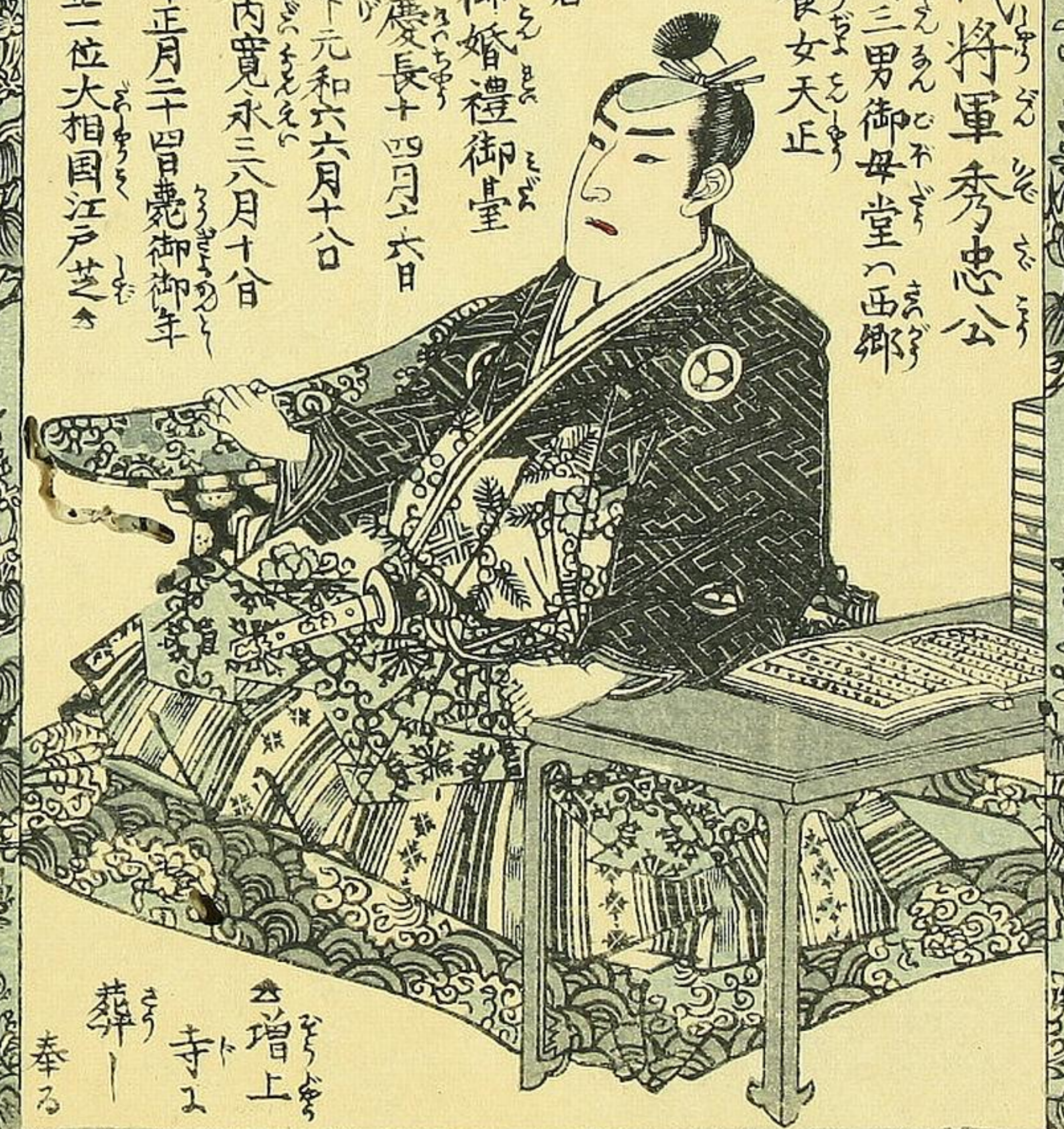
所の御傳次より慶長十四月十六日

將軍宣下元和六月十日

第五の姫君御入内寛永三月十日

大政大臣に任じ同九年正月二十日薨御御年

五十四謚曰徳院殿贈正一位大相国江戶芝



増上寺に奉る

二代將軍御臺所

此御方の浅井備前守長政の

与九

郎の

妻あり淀

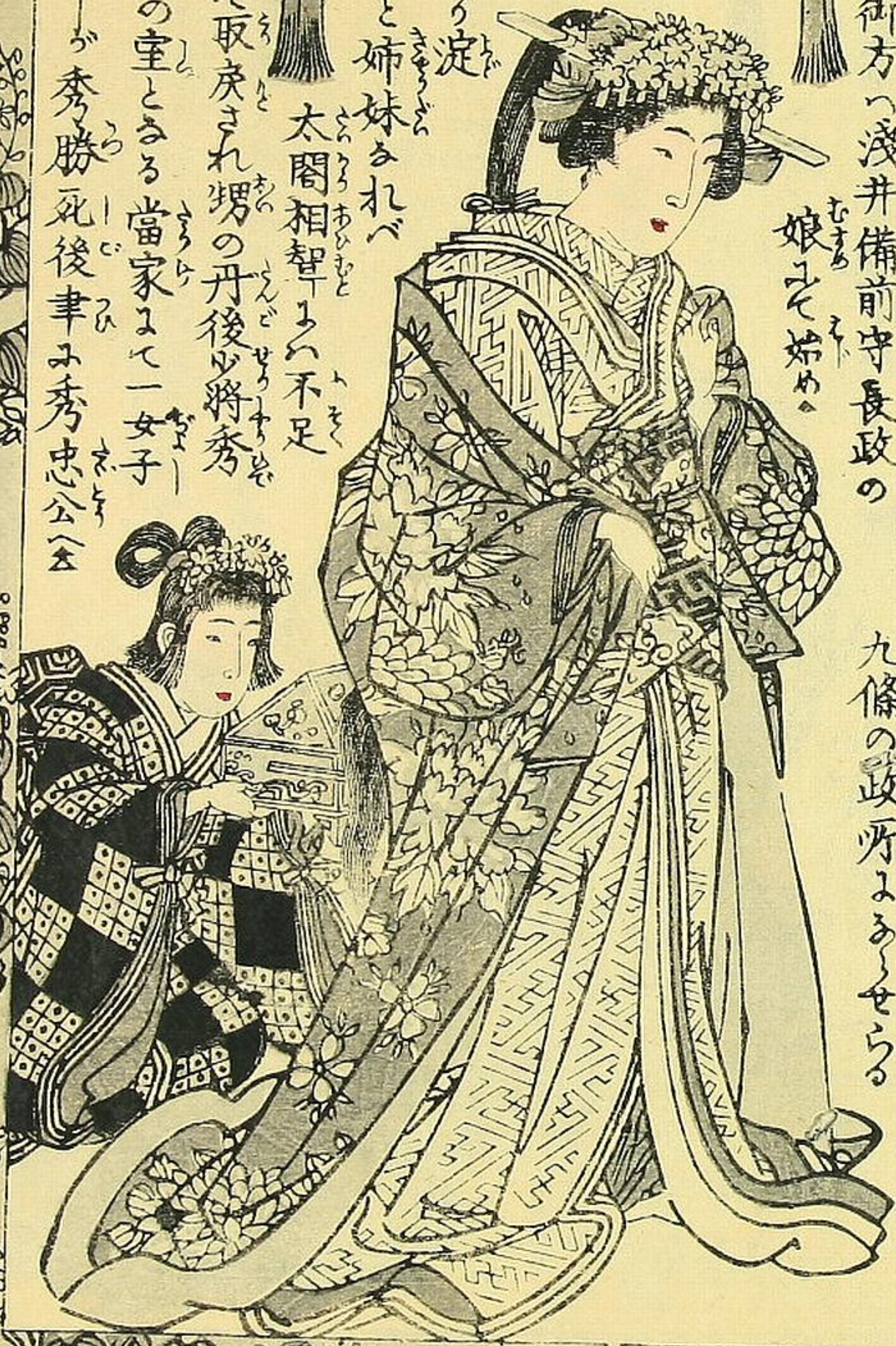
殿と姉妹なれ

太閤相替より不足

と取戻され甥の丹後少將秀

勝殿の室とある當家より一女子

を生か秀勝死後幸ふ秀忠公へ



嫁に其一女子に成人の上
九條の政所よりせらる

春日の局

竹千代君の乳母 此御方元綿葉佐渡守正成の妻

博学賢貞なれば

大奥と司り御廣敷に於て

諸侯の息女方の縁組と

扱ひ終ふ天子より西

三條実條卿の兄弟に

二位に叙せられ天顔と拜して

大盃とらさ家光廿六丈の



命に於て助まるゝ

御難瘡

此外の忠義の敷々 本文未だ

伊丹権六

此臣の家光公の侍小姓

御母堂の

女房古五の局を戀



慕ふ

異変味 付御身

替りふ

立て終ふ

御名を露さる刑罪不殿と

本朝隨一の忠臣の本統の



傳と讀て

其忠死

の續を

厚く

賞

敷



東照宮

佛心相の和歌

ふみのあり何よ

待らん終く

氏原者うれと

あふ懐あうり花

右田道灌

江戸城の和歌

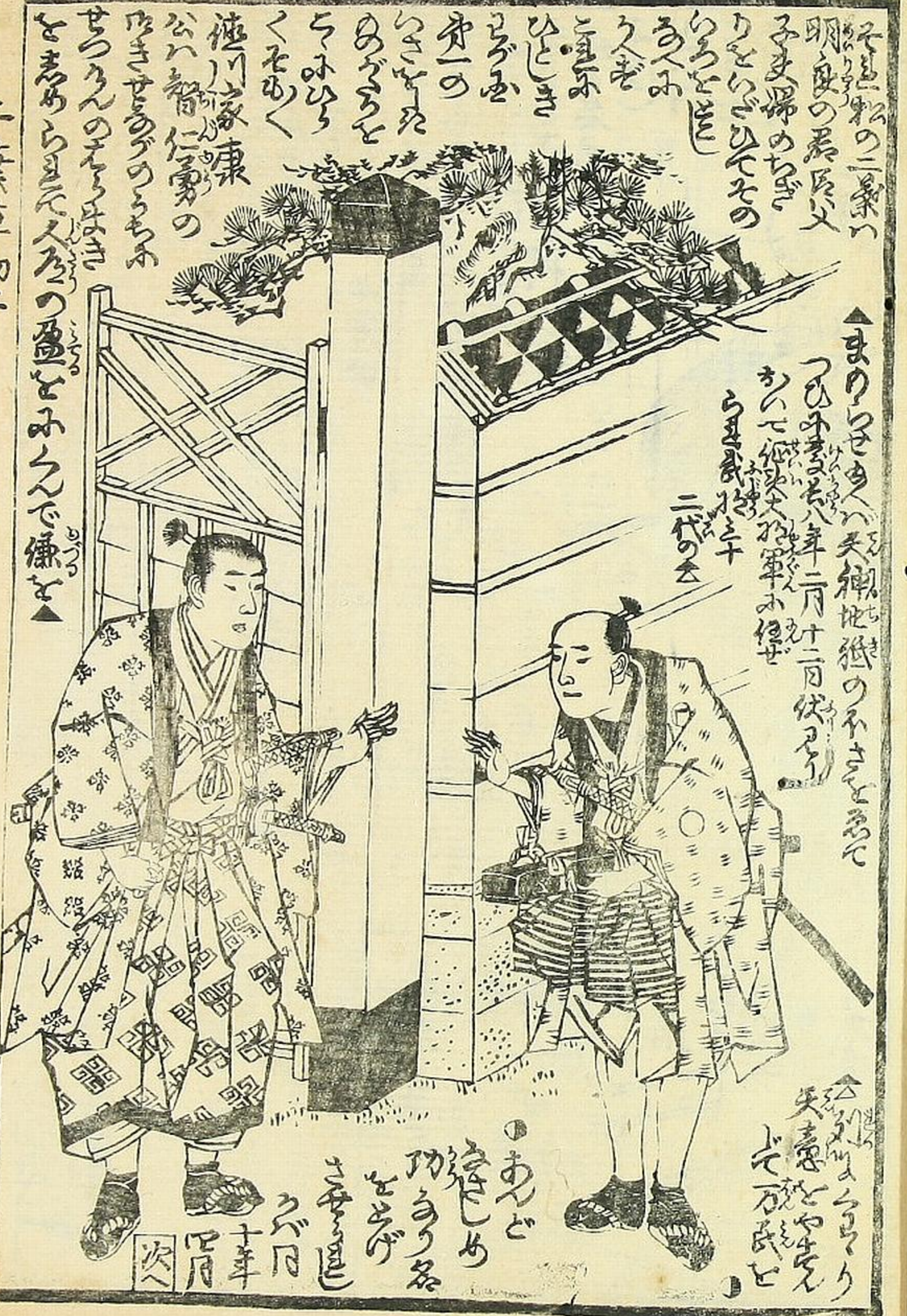
我房を相系ほき

海ちいしぬトモ

も根張

新瑞ふを見ゆ

端發



まのひき... 天徳地徳のふささ

つひのま... 八年二月十二日伏見

あて... 徳川家康

二代の

あんど... 功あり各

さき

さき

さき

さき

さき

さき

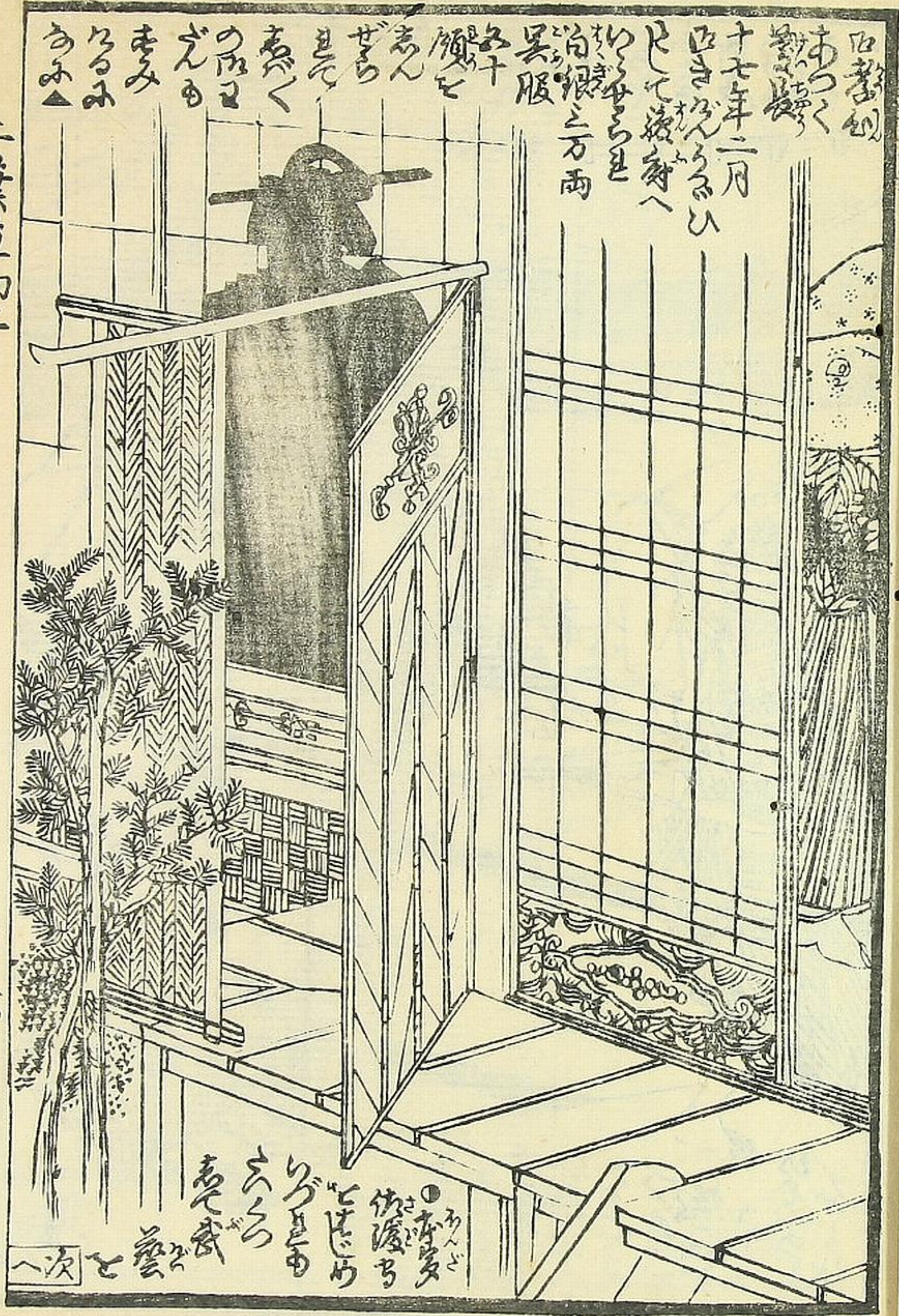
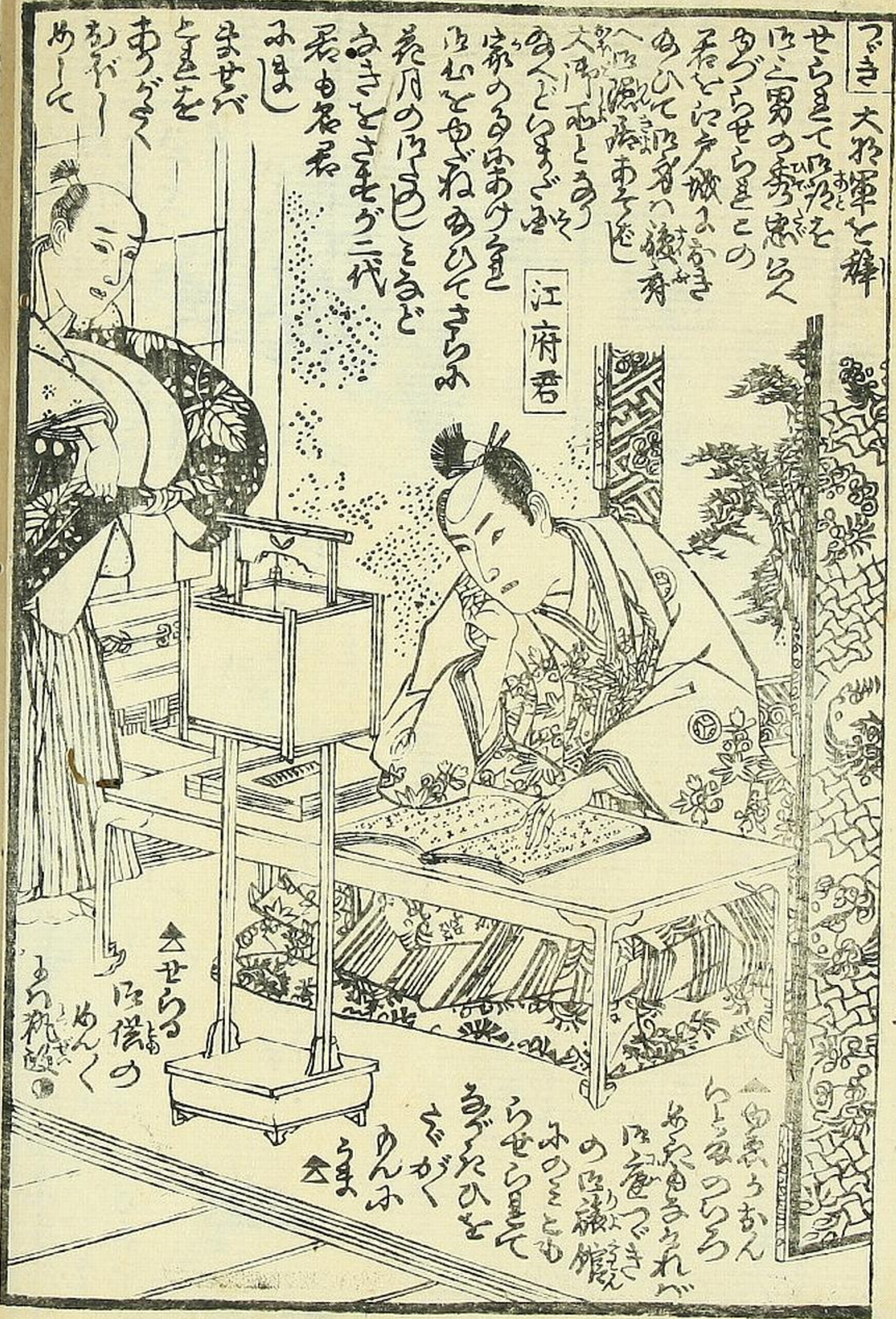
さき

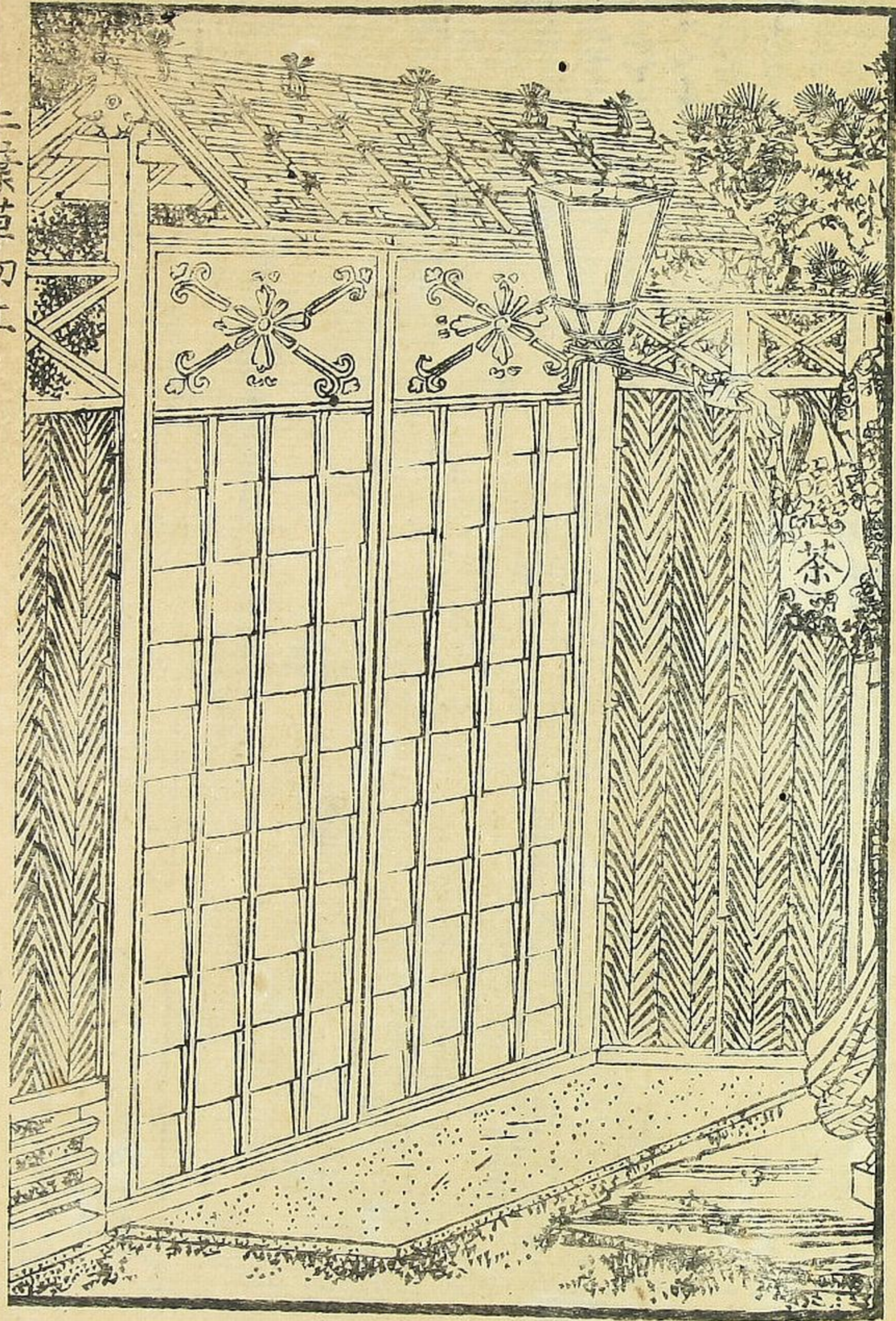
さき

さき

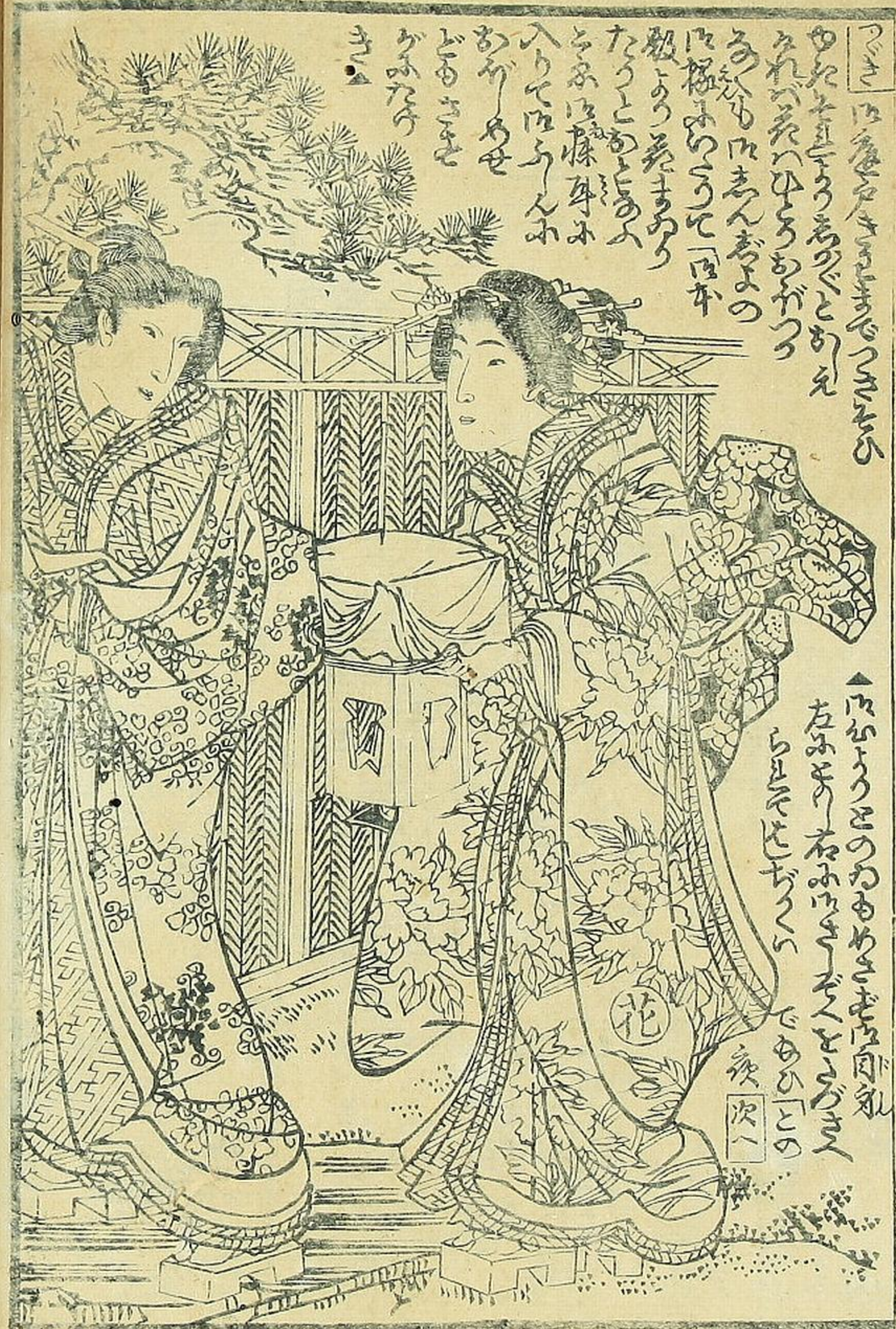
さき

さき





二葉亭四半

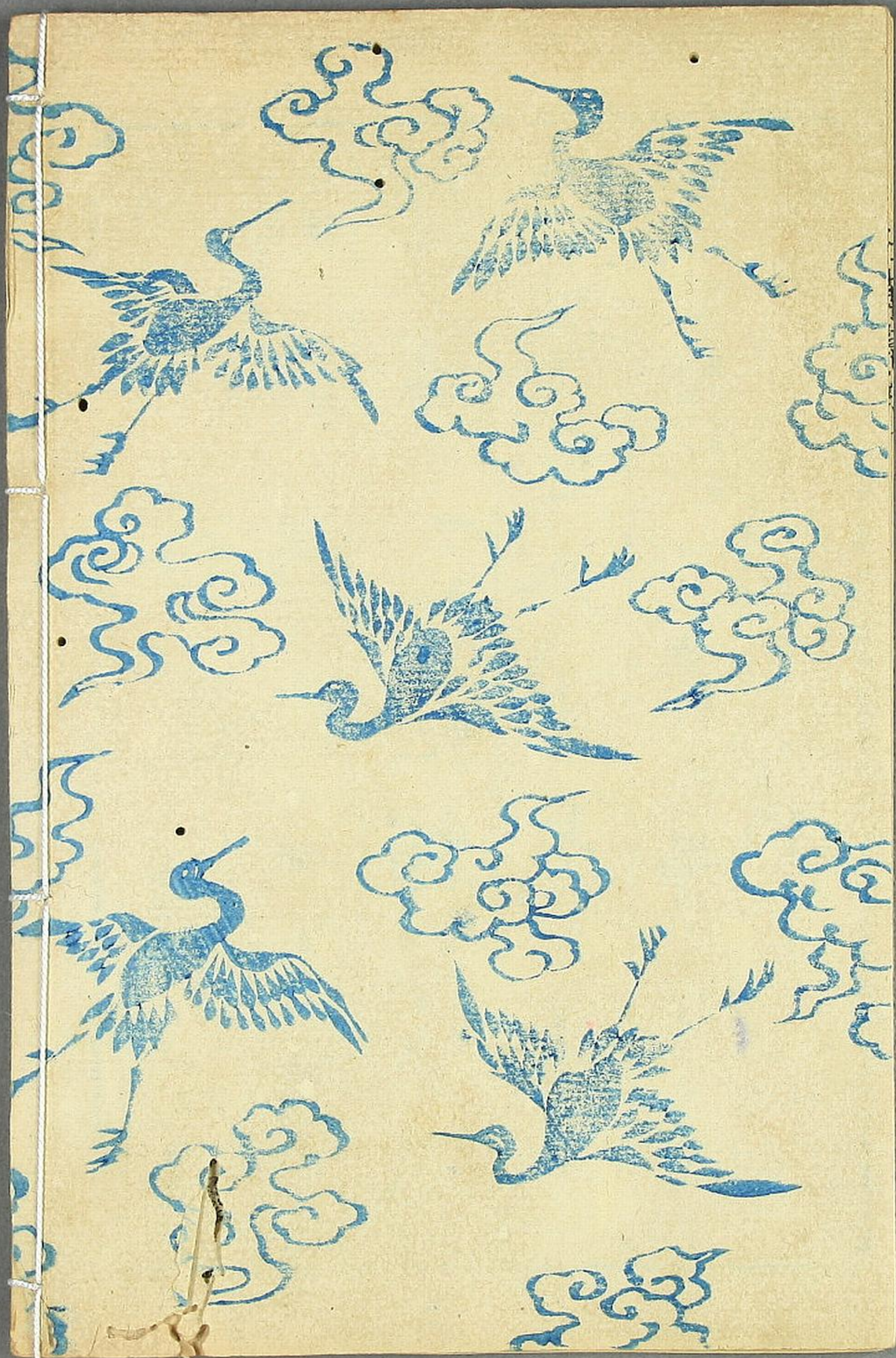


つぎに後をたまたまのしむる
ゆたき直すうさのくちあえ
えれのあひつちあがつつ
るあひつちあがつつ
は極みあつて日本
殿よりあまあつ
たうとあつてあ
らあはあつてあ
入りてあつてあ
あつてあつてあ
あつてあつてあ
あつてあつてあ
あつてあつてあ

はあつてあつてあ
あつてあつてあ
あつてあつてあ
あつてあつてあ
あつてあつてあ
あつてあつてあ
あつてあつてあ
あつてあつてあ
あつてあつてあ
あつてあつてあ

二葉亭四半

二葉亭四半



豊原國周画

澤村屋版



初編下

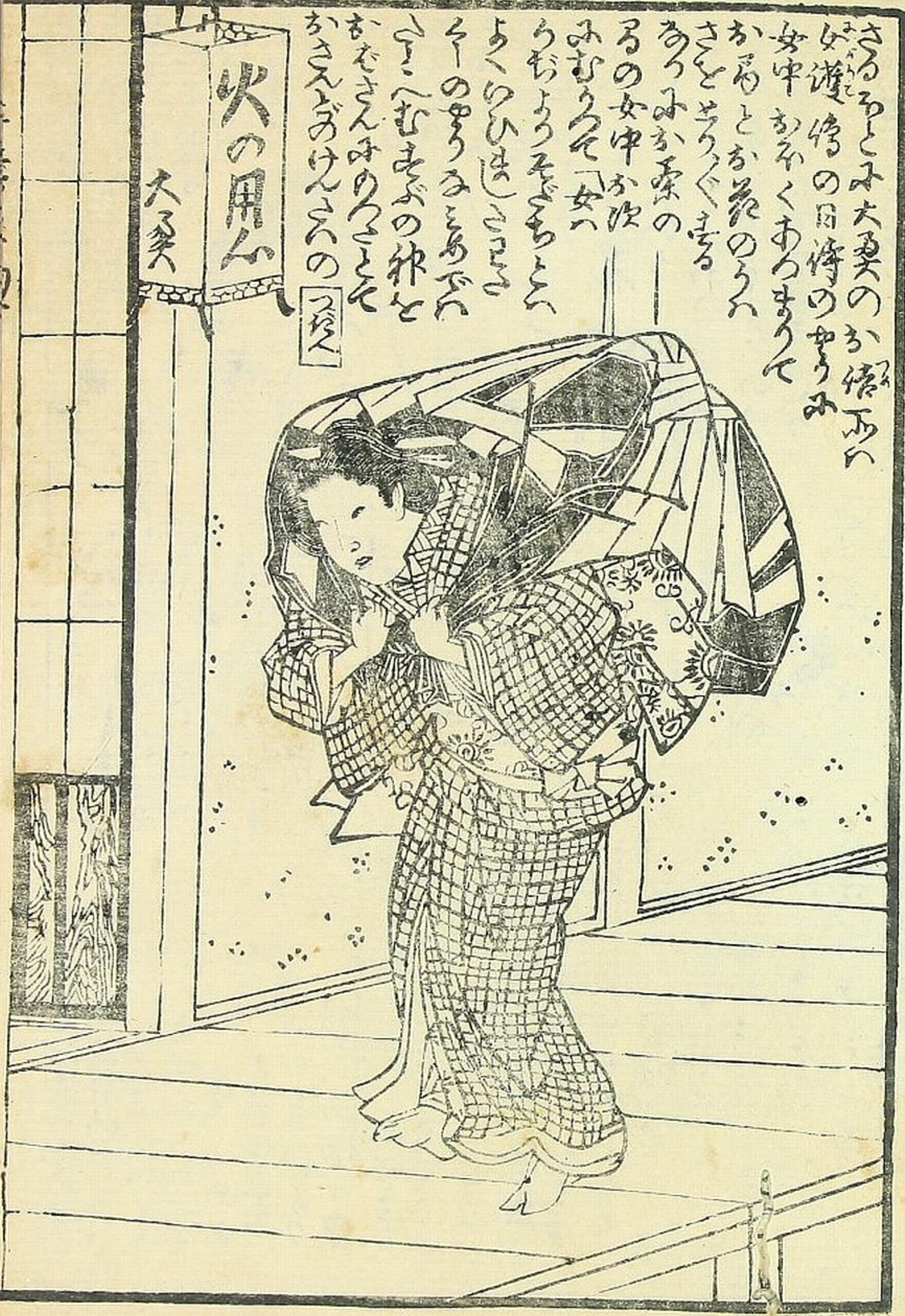
初編下冊事目

- 越後少将忠輝卿の母堂阿茶の局の
- 異傳物づゝ里の事
- 大御所江府の執政本多佐渡守正信へ
- 安堵の思を語る事
- 両君同伴りく有度の濱邊の漁捕王保の
- 松原遊覽ある事
- 駿城の本殿に於る江府の主従宴會
- 御代萬歳と唱ふ事
- 大御所江府君へ秘藏の茶入投頭巾を
- 譲られて暇をぬく事

さるるといふ大夏のか傍の
 女遊傳の目傳のやうに
 女中おなくありまうて
 かるとか家のうら
 さとさうくま
 ありみか茶の
 るの女中か
 みむうそ「女
 うちようそと
 よくのひは
 くのやうにも
 へむまの林と
 かもさんひの
 かさんおけん

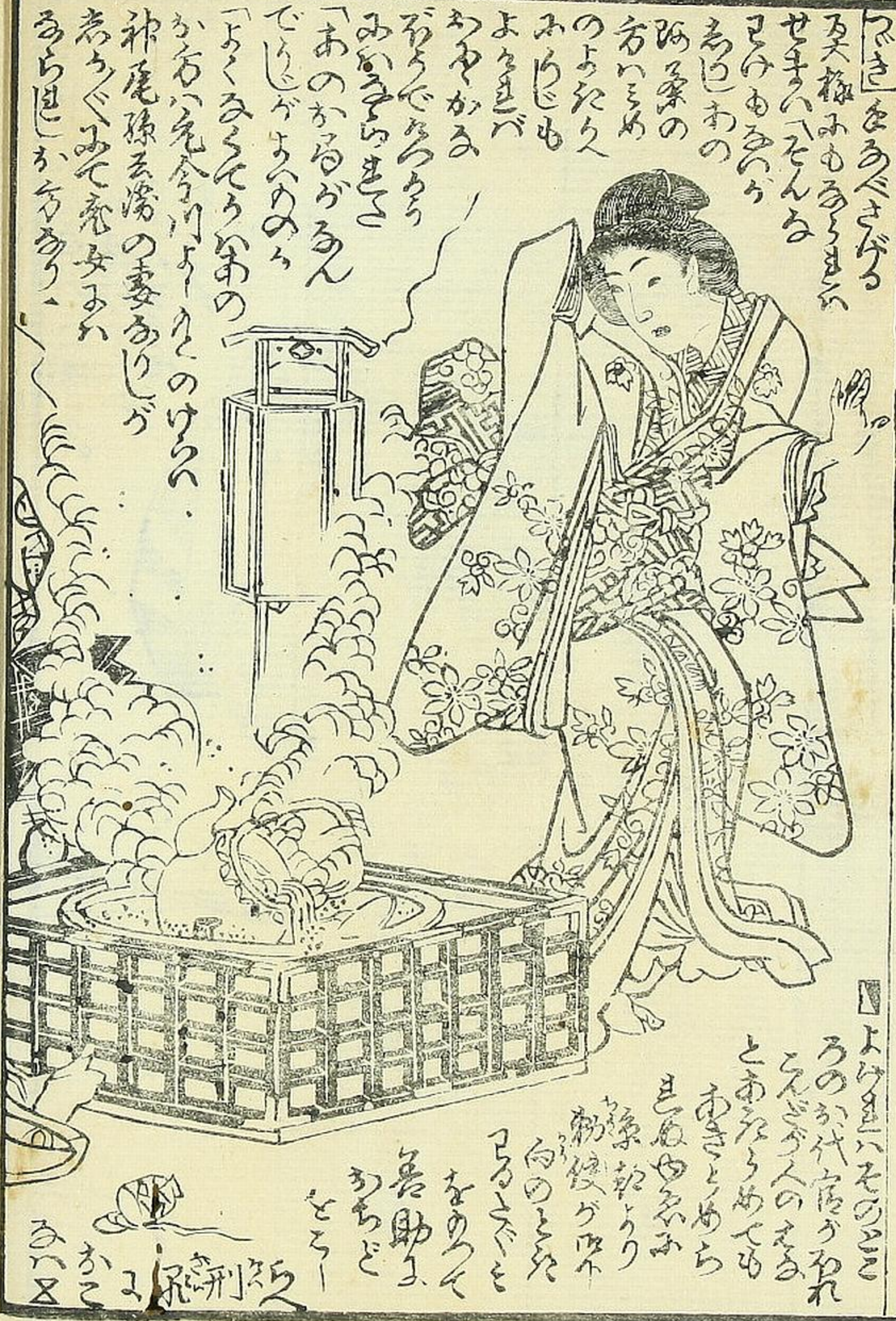
火の用心

大夏



二葉草祓下

西茶の居の傍にはあ



つきをあらさげり
 天梅ふもあらし
 せまふへそんら
 己のゆゑの
 ありあの
 西茶の
 方いそめ
 のよた久
 みりじも
 よままバ
 むやかる
 ぶらでなうら
 みいさらし
 「あのかるがるん
 じり」がよめめ
 「よくみるうの
 か方の気合のり
 神尾孫五郎の妻あり」が
 ありてあてあふ
 らら世「かろり」

よけはそ
 のか代宿うわれ
 こんごうのさ
 とあなうめてめ
 あきとめら
 色ぬゆふ
 朝霞がうり
 向のとた
 なるま
 をのつ
 善助よ
 あちど
 をそ

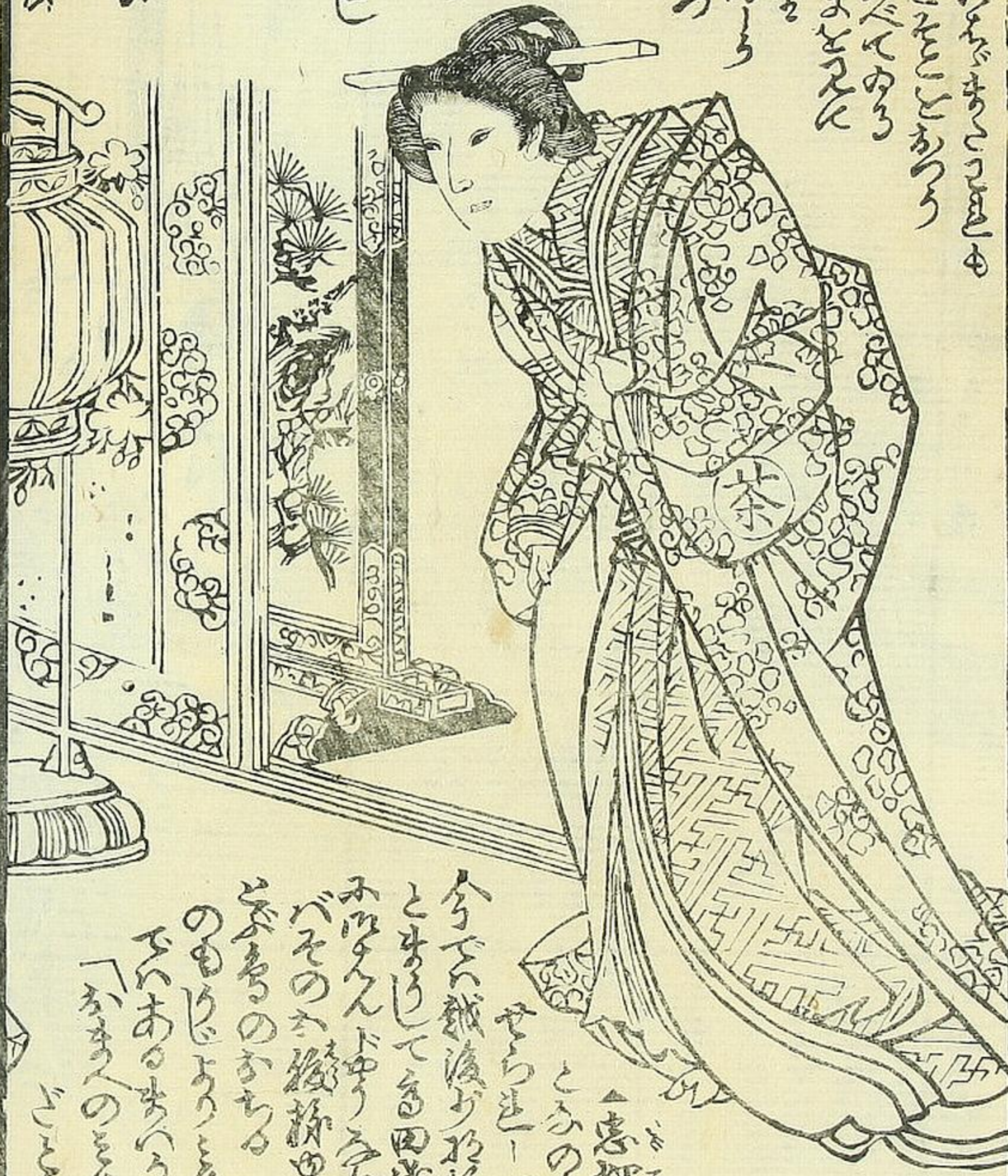


三葉草を
 え下あてま
 三葉草を
 このゆゑの
 ありてあてま
 列

井善助の
 女房あて
 らあう

三葉草を
 女房とせらま
 なりけのまふま
 ありてあてま
 さのつまの
 だうまてあ

つき くらとりのまのいづれ
 とろたしんこそいしあし
 かほくらのひのべんめい
 らちよきひまよとん
 家とあひさき
 まさぬあし
 のか後あへる
 こをまて
 その附との
 大御所梅の
 淡松より
 せうはそその
 けきん
 あそをさ
 おうの
 じてくるま
 その大宮と
 又らひさの
 おこひいせ
 そまよりの



忠輝
 とかの
 せらま
 今でん後後り梅
 とまうしてる田城
 おひんん下りるれ
 ばそのか後梅人
 とあまのあち
 のゆりより
 であのま
 かまの
 とま

おあどかま
 りつり
 らちをな
 ついて
 とら
 との
 多の
 の
 俊康梅
 よく
 と
 城
 梅
 大
 長
 康
 松



大御所
 松平

いづれか
とてあまのふもつらふりて
あふいやくかたよふかき
のかもあまのふりて

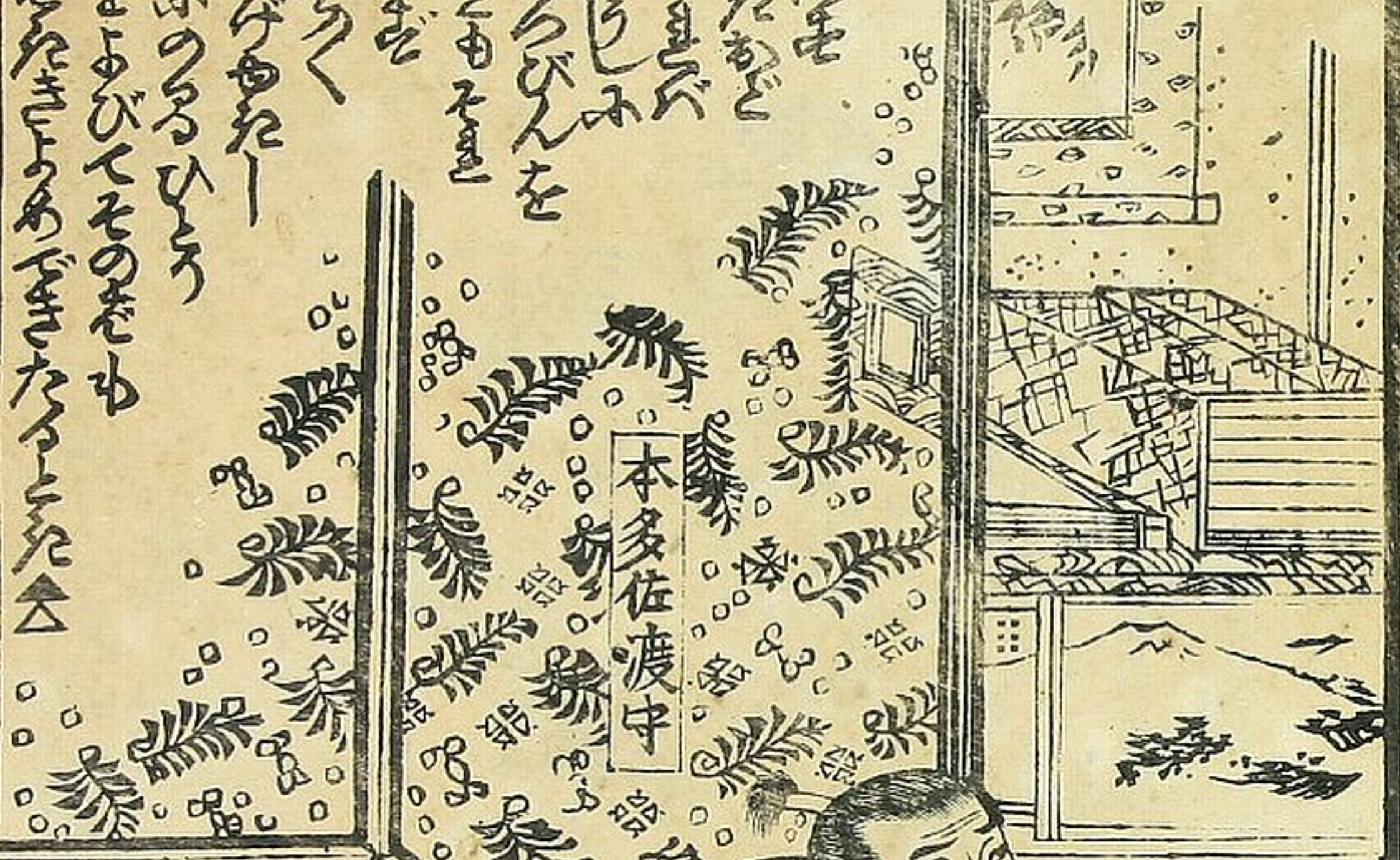
大御所

あまのふりて
いづれか
あまのふりて
あまのふりて
あまのふりて

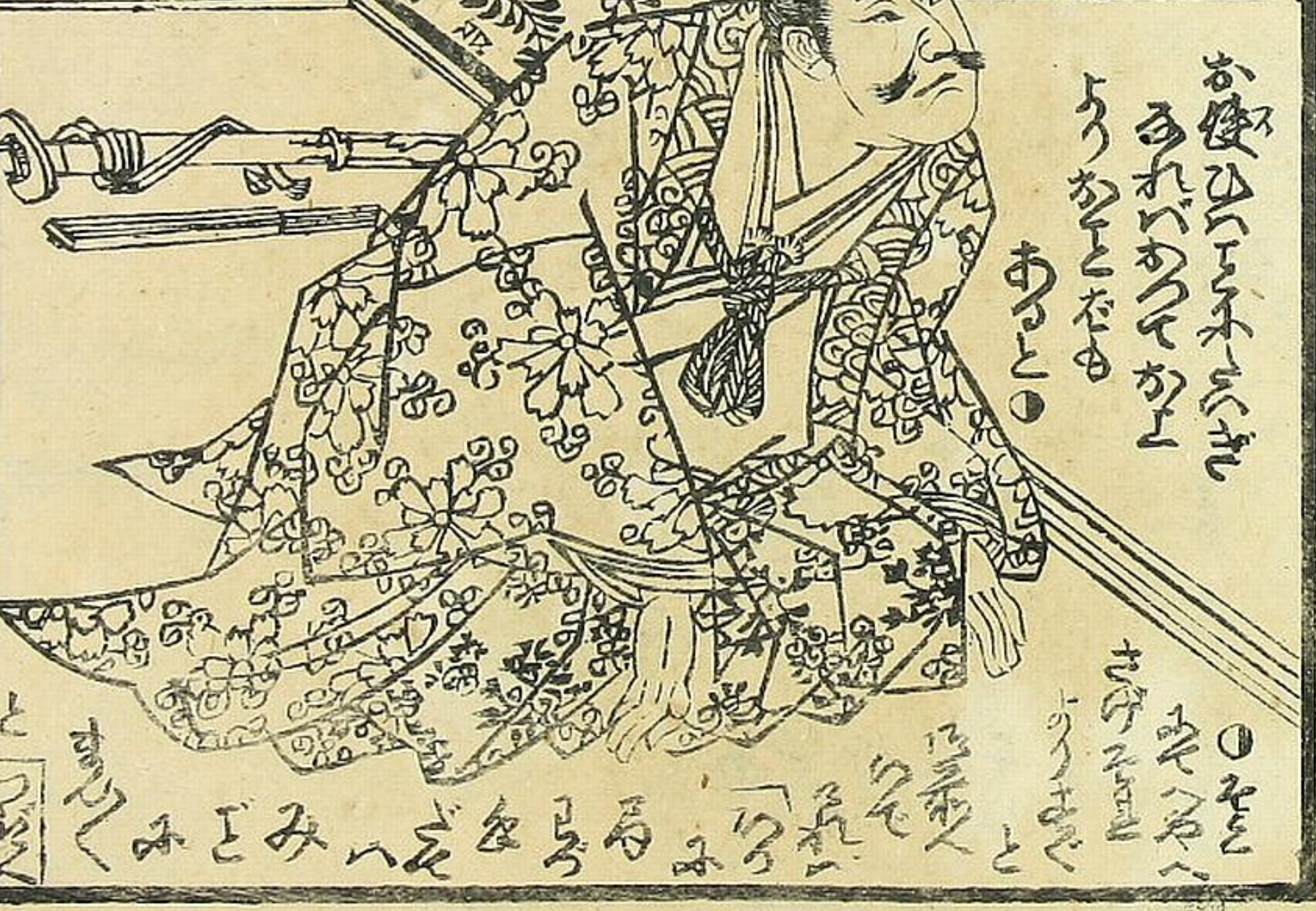


あまのふりて
あまのふりて
あまのふりて
あまのふりて
あまのふりて

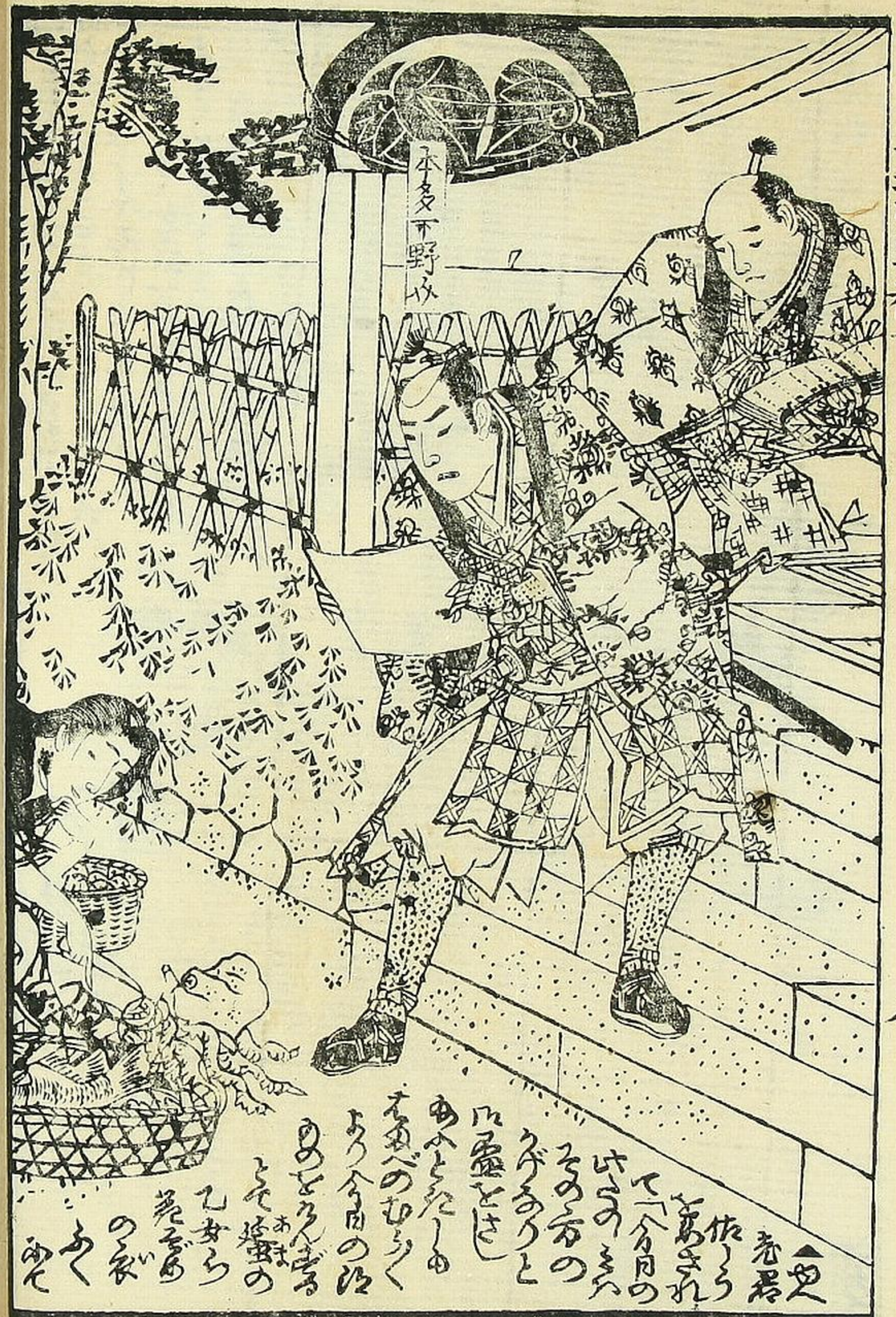
あまのふりて
あまのふりて
あまのふりて
あまのふりて
あまのふりて



本多佐渡守

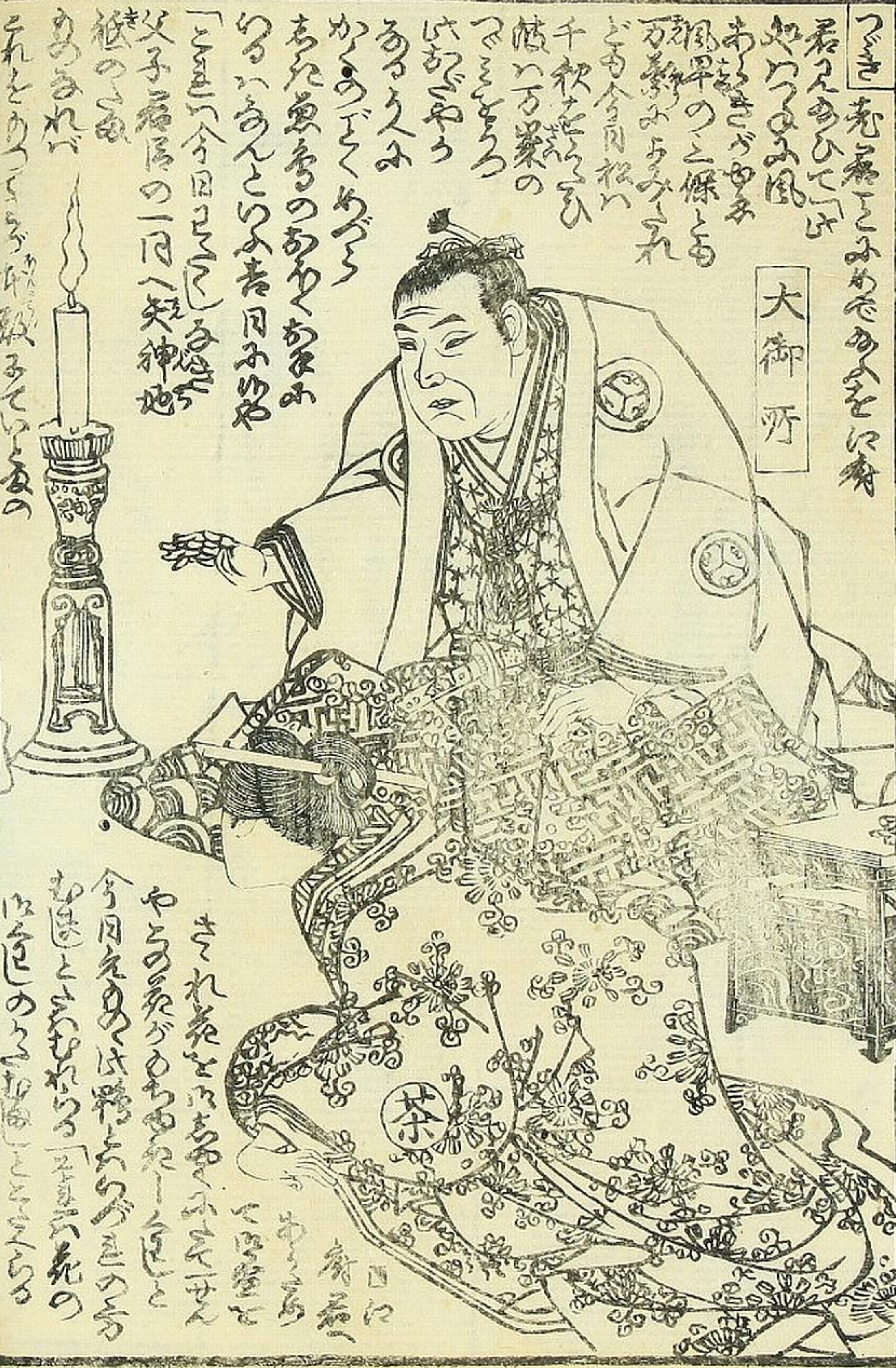


あまのふりて
あまのふりて
あまのふりて
あまのふりて
あまのふりて



つき老翁こみめをみよをいれ
君を見よひてい
やうつみ風
あはれさうやま
羽早の二條とも
万葉みちみれ
とも今月松
千秋たはらひ
然る万葉の
ついでさう
いあさう
あつ久み
かろのてくちびり
あはれさうのあやみあまみ
らつこみんとらみき月みあ
「あはれさうの一日」知神也
紙のいぬ

大御所



それとあつこみめをみよをいれ

あはれさうの一日
知神也
紙のいぬ
あはれさうの一日
知神也
紙のいぬ

あはれさうの一日
知神也
紙のいぬ

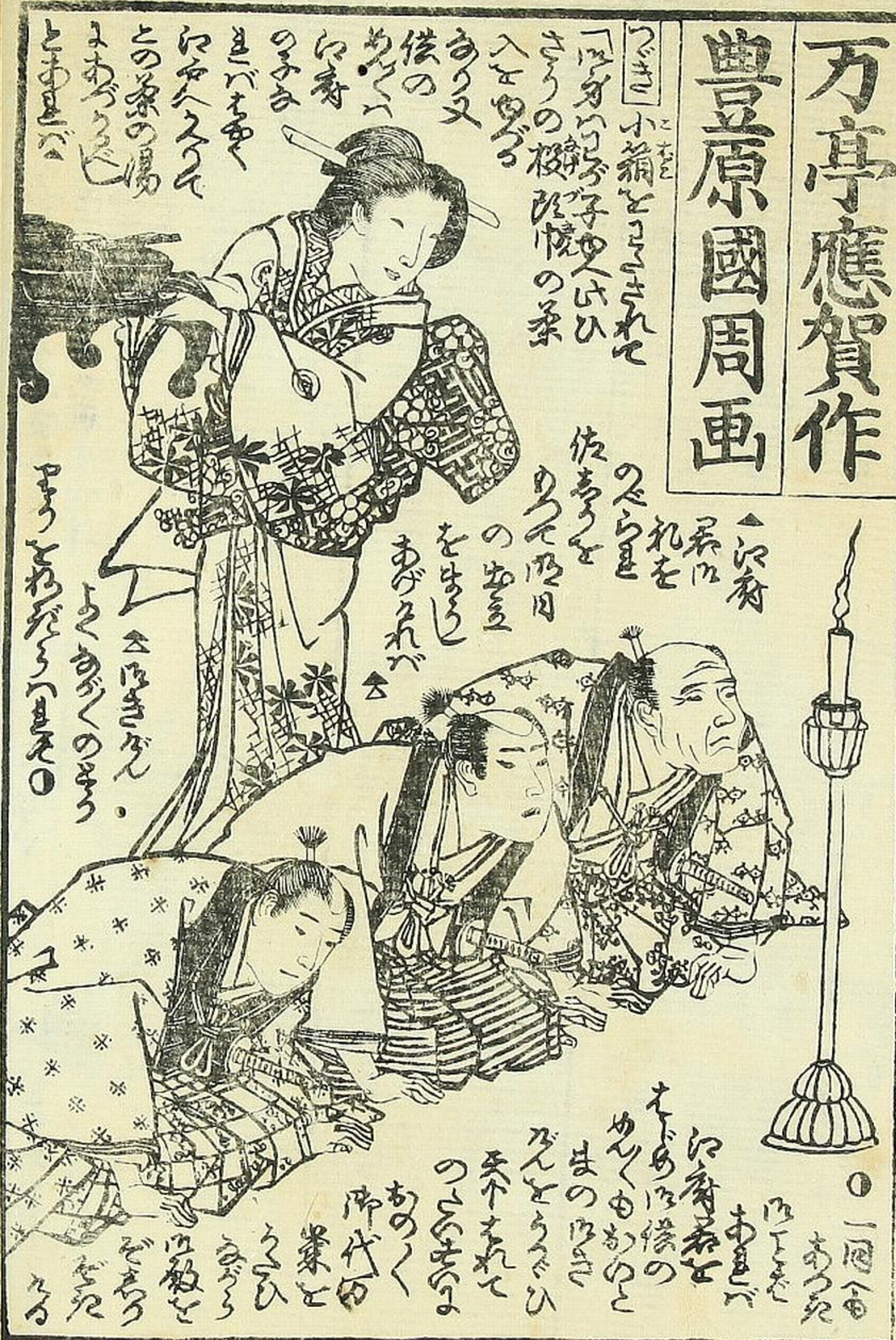
江府



あはれさうの一日
知神也
紙のいぬ

あはれさうの一日
知神也
紙のいぬ

万亭應賀作
豊原國周画



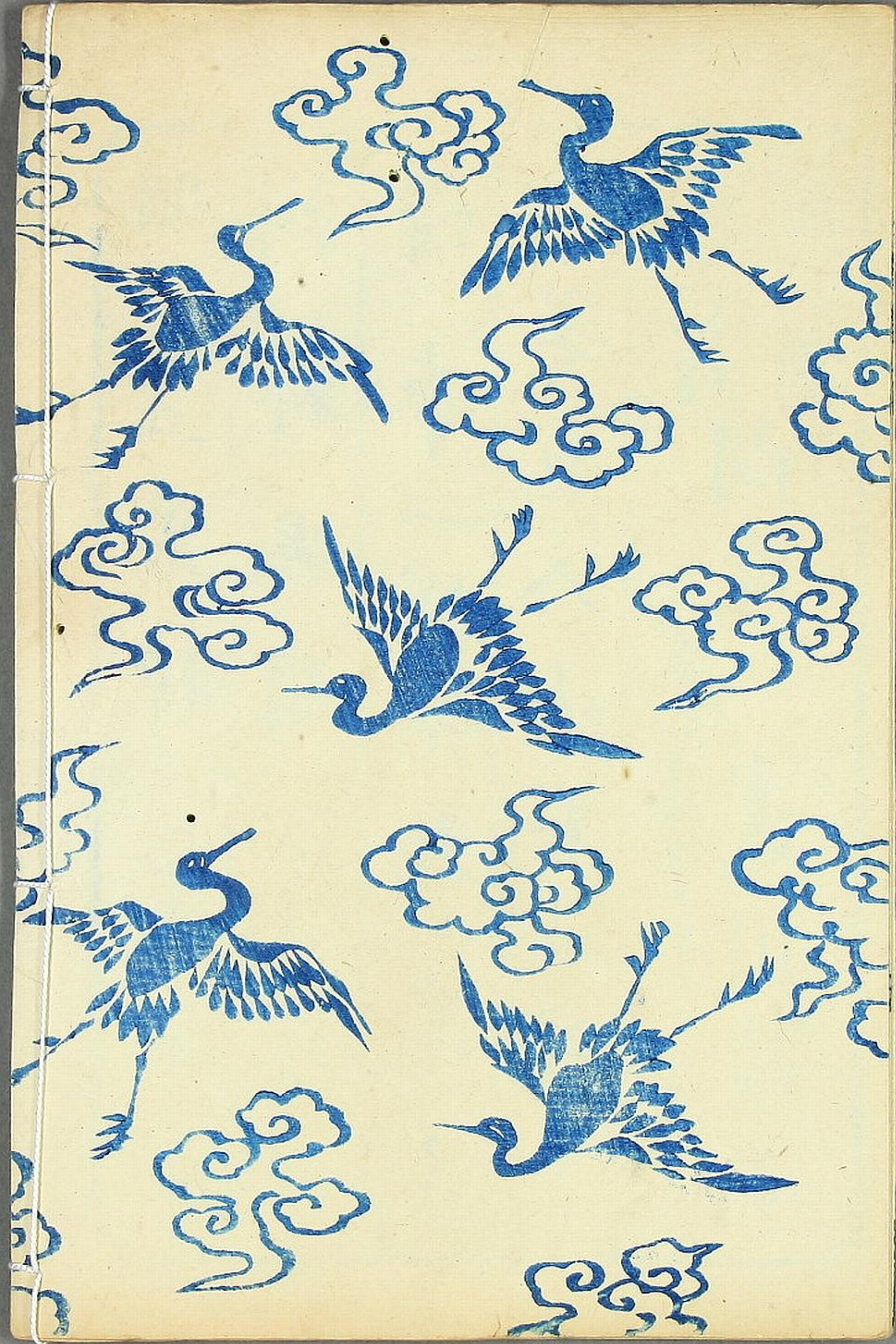
明良二葉牝 初編より追々出版

朝鮮異聞 四冊續切

繪本一代紀物 品々

上等色入小本 品々

地本錦繪 問屋 武川清吉
東京日本橋区本銀町二丁目角





明倫彙編

萬壽著

初編

惟德堂